



約1万個体の稚ナマコを放流！

～浜田と隠岐で漁業者や高校生と協力して稚ナマコを放流～

マナマコの取組について

マナマコ(通称アオナマコ・クロナマコ、以下「ナマコ」)は、干しナマコの原材料として高値で取引されており、沿岸漁業における重要な漁獲対象資源です。そのため、県内各地で漁港内等への稚ナマコ放流による資源増殖の取組が進められています。島根県水産技術センターでは、令和2年度からナマコの種苗生産技術開発を行うとともに、各地の漁業者グループおよび関係機関と連携し、放流技術開発や資源管理に取り組んでいます。

今年、約1万個体の稚ナマコの種苗生産に成功し、昨年放流した浜田漁港に加えて、新たに隠岐の島町西郷湾(隠岐水産高等学校前)においても放流を実施しました。

ナマコの生態について

自然のナマコは砂泥域に生息し、泥と一緒に有機物を食べて成長します。骨格や殻を持たず、体のほとんどが水分であるため、体の伸び縮みにあわせて体重も増減する不思議な生き物です。低水温を好み、夏場には岩の間に身をひそめ、冬眠ならぬ夏眠をします。体重は夏眠中に減少することもあります。1年を通じて徐々に増加し、漁獲されるサイズになるまで、約3年かかります。

繁殖は体外受精で行われます。性別は雄と雌に分かれています。外見から区別することはできません。受精した卵からふ化したばかりのナマコは親とは違う姿で、約2週間、海中を漂っています(図1、浮遊期)。その後、海底に着底し、稚ナマコの形になり、成長していきます(図1、着底期)。

当センターでは、人為的にマナマコから精子や卵を放出・受精させ、放流に適した

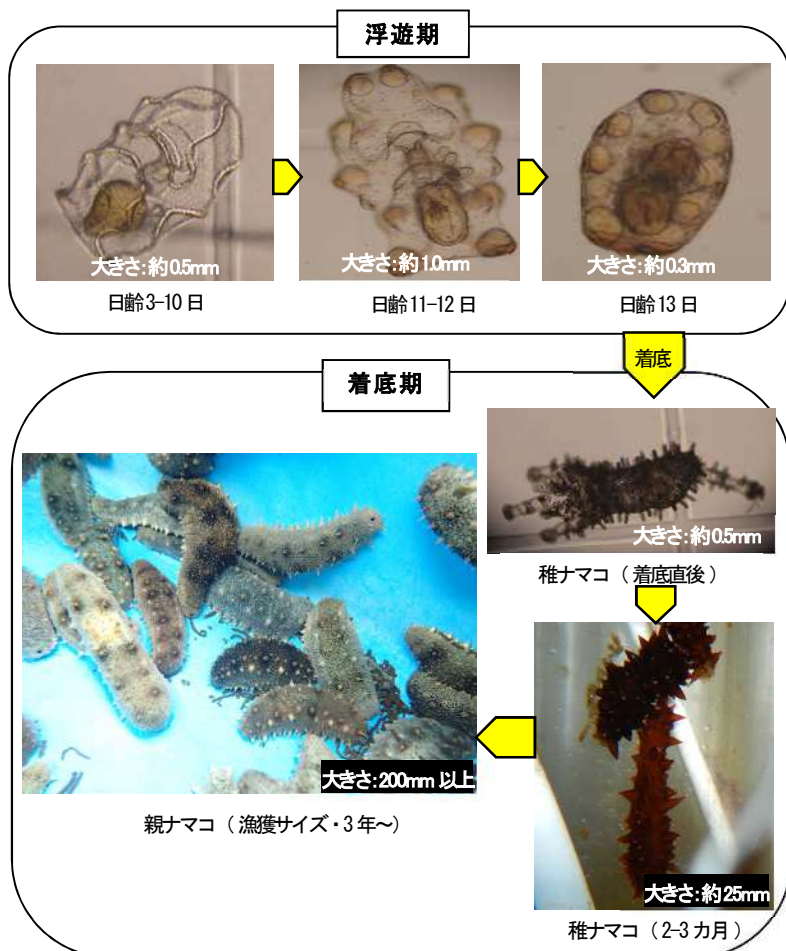


図1 ナマコの成長段階

大ききまで育てる種苗生産を実施しています。

稚ナマコの放流について

今年は昨年よりも放流に適したサイズの稚ナマコを多く生産することができました(図 2)。そこで、浜田漁港(約 3,000 個体、平均全長約 20mm)と隠岐の島町西郷湾(約 6,200 個体、平均全長約 20mm)の 2 カ所で放流を実施しました。

(浜田漁港)

浜田漁港では漁業者が中心となり、稚ナマコをボトルに詰めて(図 3)、スキューバ潜水で漁港内の海底に丁寧に放しました(図 4)。また、漁業者による「豊かな海づくりに関する実践活動推進事業」の取組と連携して、試験礁(かき殻や石を詰めたコンテナ)を海底に設置しました。今後、試験礁に放流した稚ナマコの生残や成長を確認する予定です。



図 2 放流に用いた稚ナマコ



図 3 稚ナマコをボトルに詰める



図 4 スキューバ潜水による放流

(隠岐の島町西郷湾 隠岐水産高等学校前)

隠岐の島町西郷湾では、当センター職員、地元の漁業者及び、隠岐水産高等学校の生徒とともに放流作業を行いました(図 5)。高校生はナマコの種苗生産や放流効果について学習しており、「稚ナマコの餌」、「養殖の可能性」など、様々な質問があり、関心の高さが伺えました。

今後は、放流した稚ナマコの追跡調査を行い、効果的な放流技術や資源管理手法の確立に役立てていきたいと考えています。



図 5 隠岐水産高等学校生による放流

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp

